

『救い主の降誕』

'21/12/12

聖書箇所:ピリピ人への手紙 2章 3-11節(新約 p.384)

皆さん、来週はいよいよ、クリスマス礼拝です。今のこの時期、巷はクリスマス一色で…、キリスト教を信仰している人たちがほとんど居ない…、ここ日本にあっても、大勢の方たちがクリスマスをお祝いしてられるように、“一見見えます”。しかし、ここ日本におきましては、大勢の方たちが、実は、クリスマスがイエス・キリストの誕生をお祝いするためのイベントであるということさえもご存知ない方たちがおられて…、それがクイズにもなったりするほどです。

私たちが「メリー・クリスマス！」と言う、その Christmas という単語を英語で書いてみると、その前半部分には、はっきりと Christ という文字が見て取れますように、クリスマスの主役は、本来、サンタクロースでも無く、当然、恋人たちでもありません。また、当然、本来は、映画を観たり、パーティをすることでもない…、イエス・キリストの誕生をお祝いするものでなくてはならない！はずであります。

命題: イエス・キリストの降誕が教えてくれていることとは？

しかし、残念ながら、ここ日本ではあまりご存知ない方が多いのかも知れませんが…、イエス・キリストが人間となって、この地上に来てくださったというのは、実は驚くべきことなのです！もしも皆さんが、イエス・キリストというお方のことを正しく知ってくだされば、もっと…、このクリスマスのことをお祝いして下さるはずであります。恐らく、皆さんは今、この 12 月をクリスマス気分で過ごして下さっていると思いますが、このイエス様のことを、もっとはっきりと知って下さったら、皆さんは、このイエス・キリストの誕生を…、クリスマスのシーズンだけじゃない！1年中通して、感謝して下さることと思います。

そうして、皆さんの毎日が、こんな不景気で…、新型コロナのことなどで、あまり先が見えないような、混沌とした中にあっても、もっと感謝や喜び…、あるいは、希望や平安などといったような思いで満たされていくはずですよ。どうぞ、今日の聖書のみことばであるピリピ 2:3-11 をお開きください。今日は、そこから、「イエス・キリストの降誕が教えてくれていること」について学んでいきたいと思えます。

- 3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。
- 4 自分のことだけでなく、他の人のことも顧みなさい。
- 5 あなたがたの間では、そのような心構えていなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。
- 6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられぬとは考えず、
- 7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、
- 8 自分を卑し、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。
- 9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。
- 10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、
- 11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

I・イエス・キリストは、神としての特権を捨てられた！(6節)

実は、この部分は「謙遜」について教えられてあります。そのことの1番の模範として、使徒パウロはイエス様のことを例に挙げてくれています。…と言うのも、イエス様は、神であられるのに、その“神”としての特権を捨ててくださったからです。実に、イエス・キリストが、この世に生まれて来てくださったということは、

私たちとは根本的に違う…、人類史上、他に類を見ない特別な出来事なのです。まずは、そういったことを、今から一緒に確認していきましょう。

●イエス・キリストは、神そのものであられる！

皆さん、どうぞ、今読んだみことばの6節をご覧ください。実は、ここ6節の部分は、聖書66巻の中でも、非常に重要なみことばであると考えられています。…と言いますのも、ここ6節のみことばは、イエス・キリストというお方がただの人間ではない！真の神であられるのだ！ということ、はっきりと教えてくれているからです。良いですか？皆さん！…イエス様は、単なるキリスト教の創始者や、あるいは、宗教家であったわけではありません。真唯一の神が人間となって来てくださった…、特別なお方なのです！

ここ6節をご覧くださいと、その前半で、『キリストは神の“御姿”である方なのに…』と書かれてあって、正直、もっとシンプルに、「キリストは神なのに…」と書かれてあった方が良いように思われるかも知れません。しかし、このみことばは、そもそも、そういった誤解の無いように本来書かれてあるのです。このみことばに限りませんが…、特に、私たちが持っている新改訳聖書の翻訳は、できるだけ、一番最初に書かれた元々の文章のイメージを壊さないように翻訳されてあります。そのため、私たちは、多少、日本語に翻訳された聖書の表現に取っつきにくさを感じるかも知れませんが…、でも、聖書のみことばは、真唯一の神様が私たち人間に書き送ってくださった唯一のメッセージなので、できるだけ、私たち人間が勝手な解釈をして、その文言のイメージを歪に変えてしまうことがないように、できるだけ、元々の文章…、つまり、原文のイメージを崩さないように配慮されてあるのです。

どうぞ、皆さん、この6節と7節のみことばに注目して下さいます？実は、ここ6節で、『御姿』と訳されている言葉があります。それと、7節にも、同じように、『姿』と訳されている言葉があります。それと、もう一つ、『性質』と訳されている言葉があります。実は、これら3つは皆、「姿、かたち」を表わすような言葉なのですが…、6節の『神の御姿』と、7節の『仕える者の姿』というところには、決して変わることはない「姿、かたち」を表わす言葉が使われてあります。それに対して、7節の『性質』というところには、同じような「姿、かたち」を表わすような言葉であっても、変わる可能性のある場合に使われる言葉なのです。

つまり、このみことばが教えてくれていることは、イエス様は神！そのものであって…、一時たりとも、イエス様が神様で無かった時はない！今後も変わらず、神であられる！ということなのです。だって、神様なんていう存在は、ある時点で神様になったり…、また、ある時に神様でなくなる、なんていうことなんて有り得ないじゃないですか！そうですよ？…にも関わらず、ここ日本では、かつて人間であった存在が、死んで後、神様になったりするわけです。でも、そんなことって、おかしくありません？

この聖書が教えてくれている真の神様という存在は、すべてを造られ…、また、すべてのことを御存知の全知全能の、「絶対者なる存在」です。だから、神は唯一なのです！だって、絶対者が何人も存在するなんてこと有り得ないでしょ！絶対に、どちらか一方が勝って…、どちらか一方が劣っているはずなのです。そうじゃないでしょうか？…神からのメッセージである聖書は、はっきりと教えてくれています、「神は“唯一”であって…、その神がイエス・キリストとなって、この地上に来てくださったのだ！」って…。

●イエス・キリストは、約束の 救い主 であられる！

しかし、今日のみことばは、そんなイエス・キリストが人間となって、この地上に来るに当たって、その神としてのあり方を捨てて…、その上で、人間となって来てくださったということを教えてくれています。そのことは、イエス様が、一時的に神でなくなったというわけではありません！しかし、イエス様は、神としての“特権”をお捨てになって、この世に来てくださったのです。そのことは、イエス様が、人間となって生まれてくるために、どうしても必要なことでありました…。でも、イエス様は、私や皆さんに対する愛のゆえに、神様としての様々な特権を捨てて…、この世に生まれて来てくださったのです。

多分、皆さんは、1度手にした特権を手放すことが如何に難しいかを知っておられると思います…。しかも、その特権が初めから持っていて当然のものであったら、なおさらではないでしょうか？…かつて、イエス様は神として、何の不自由もなく、あの天で、父なる神様と深い交わりを持っておられたのに、そこを離れて、人間の体を持って、この地上へ下りてきてくださったゆえに…、様々な不自由や痛み…、飢えや渇きなど…、また、人間からの辱めや暴力などを経験してくださいました…。イエス様は、この地上に、救い主として来られることが、如何に大変なことか、すべてご存知の上で、ここにいる私や皆さんのために、敢えて、人間となって、この地上に下って来てくださったのです！

イエス様がお生まれになってくださったことを、教会では、今日のメッセージのように「降誕」と言います。それはイエス・キリストという存在が、実は、誕生されたその瞬間から始まったのではなく…、その前から、神として存在しておられたからです。神であられたお方が、人間となって、この地上に降りてきてくださった…、そのことをお祝いするのが、本当のクリスマスなのです。

しかし、ここ日本では先程も言いましたように、大勢の方たちが、イエス・キリストがご降誕された真の神であることを知らずに、クリスマスの雰囲気だけを味わっておられます。しかし、本当にそんなことで良いのでしょうか？ 聖書の中に、『神は霊です…』(ヨハネ 4:24)と教えられてある部分があります。真の神は、私たち人間のような肉体や物質的な要素を持たないという意味であります。そんな霊的な存在である神が、神としての特権を捨てて…、肉体を持つべく、この地上に来てくださった…。そのことは、偉大なる奇蹟なのです！クリスマスというのは、本来、その神様のことを思い…、その神様に感謝するためにあるのです。今日、私が皆さんに願いますのは、1人でも多くの方々が、このクリスマスの時に、人間となって、この地上に来てくださった真の神様のことを思い…、その意義を知ってくださることです。

Ⅱ・イエス・キリストは、人間 となってくださった！(7 節)

その次に私たちが見ていきたい、今日2番目のポイントは、イエス・キリストは、間違いなく、“人間”でもあられた！ということです。…確かに、今先程確認いたしましたように、イエス・キリストが真の神であられたということを、この聖書のみことばは、はっきりと教えてくれています。しかし、それと同時に、聖書のみことばは、イエス・キリストが、私たちと同じような人間であった！ということも教えてくれています。だから、イエス様は、他に類を見ない…、特別な存在なのです。

●イエスは、預言通り、処女マリヤから生まれた！

そのイエス様の特殊性を物語っているのが、その誕生であります。…と言うのも、イエス様は、私たちとは大きく違ったかたちで生まれて来てくださったからです。どういった点で、私たちと違っていたかと言いますと、まずは、預言であります。イエス・キリストは、お生まれになる何百年も前から、聖書を通して預言されておられ…、イエス様は、その“預言の通りに”生まれてこられたのです。

例えば、ミカ 5:2 では、救い主として生まれてくるお方が、『ベツレヘム』という町で生まれるということが預言されてあります。また、それだけではありません。イザヤ 7:14 では、救い主が、特別な奇蹟を通して与えられる…。何と、男を知らない処女から生まれる！ということが預言されてあります。しかも、そういったことが、イエス・キリスト誕生の、700 年も前から預言されてあったのです。

また、救い主に関する預言の、最も古いものと考えられてあるのは、イエス・キリストが誕生される、はるか 1400 年も前に預言されたものです。そこでは、救い主となる存在が、『女の子孫…』(創世記 3:15)として生まれてくる！という風に書かれてあります。つまり、イエス様が、私たちと同じような、男女の営みから生まれてくるのではなく…、女から(=処女から)生まれてくるということが、キリスト誕生の、何と 1000 年以上も前から預言されてあったのです！

救い主が処女から生まれてくるということは、単なる、おとぎ話の類ではありません。また、このことは、しっかりとした根拠のあることなのです。…と言うのは、誰であれ、普通の男女の営みから生まれてきた者は、私たちが生まれながらに持ってしまっている罪の性質までも受け継いでしまいます。しかし、それでは、私たちの救い主となることはできません。だから、救い主であるイエス様は、私たちと同じ人間でありながら…、私たちとは“違う方法で”生まれてこなければいけなかったのです！それが、イエス様が、私たちとは大きく違う、2番目の理由であります。…イエス様は、処女マリヤから、お生まれになったのです！

●イエスは、家畜小屋 で生まれてくださった！

そのイエス・キリストは、今から約 2000 年前、ベツレヘムという町で生まれてきてくださいました。その時の様子を書き記した聖書のみことばには、イエス様が“家畜小屋”で生まれたということが教えられてあります。何と、救い主であられるイエス様は、その誕生が何百年も前から預言され…、予め、約束されていたにも関わらず…、その誕生される場所に関しては、実に粗末な場所で生まれてくださったのです。

この誕生のストーリーだけではありません。イエス様は、その生涯を通して、謙遜と言うか、へりくだりを実践してくださいました。だから、今日のこのみことばを書き記したパウロは、謙遜ということの模範を示すに当たって、イエス・キリストのことを一番に挙げたのです。天の神様は、どんなことでも御出来になる全知全能なる御方です！…ですから、神様は、そのイエス様のことを、金持ちの…、権力者の元に生まれさせることもできたのです！…にも関わらず、神様は、イエス様を粗末な場所に生まれさせてくださって…、それ以降、イエス様の生涯は、大勢の民衆たちのそばに居て、それこそ、寝る間も惜しんで、真の神に関する教えや、救いのメッセージを語ってくださったのです！…そういったことを、私たちはマルコの福音書の学びを通して、学んできたはずですよ。

しかし、そんなイエス様の周りには、その活躍を快く思わなかった、当時の宗教家たちであった律法学者やパリサイ人、祭司長たちが居りました…。彼らは、当時、自分たちにとって、目障りであったイエス様のことを抹殺してしまおうと、当時の民衆たちを扇動しました…。しかし、イエス様は、そういった者たちに、何を願っておられました？…何と、イエス様は、あの十字架上で、『父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです！』(ルカ 23:34)と祈って、自分のことを、こんな十字架へと追いやろうとした…、あの律法学者やパリサイ人たちが救われることを祈ってくださったような…、そんな愛と赦しにあられたお方であったのです。

ある時、イエス・キリストは、こんな言葉を口にされました。『28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。』(マタイ 11:28-30)⇒イエス様は、先程言った律法学者やパリサイ人たちにも救いのメッセージを語り…、彼らの間違いを正そうとしてくださいました。実際、彼らの中には、イエス・キリストのことを真の神、救い主と信じた者も居りました。実際、今日のみことばを書き記したパウロが、そうだったじゃないですか！

イエス様のメッセージは私たちを様々な重荷から解放し、私たちに本当に歩むべき道を示してくださるものです。人は、本当の造り主である真の神様の元へ帰って、初めて、本当の価値ある人生を歩むことができるのです。イエス・キリストは、そういったことを教えるために、私たちのところへ人間となって来てくださった、約束の救い主であられたのです…。

Ⅲ・イエス・キリストの誕生は、**十字架**のためであった！（8 節）

どうぞ、皆さん。もう1度、今日のみことばの8節をご覧ください。そこで、イエス・キリストは、『自分を卑しくし、死にまで従い、**実に十字架の死にまでも従われました。**』ということが教えられています。イエス様の誕生は、**実に、“十字架”へ向かうために、どうしても欠かすことができないこと**であったのです！でも、ここで是非、皆さんに考えていただきたいことは、一体どうして、イエス・キリストが十字架にかからなければならなかったのか？という、その理由であります。

●イエス・キリストが十字架にかかられた理由！

このみことばが教えてくれていることは、イエス・キリストが、①自分のことを卑しくして…、②そうして、十字架の死にまでも従ってくださった、ということであります。ここで、『卑しくし…』(ταπεινώ)と訳されている言葉は、「謙遜にする、へりくだる…」という意味で、イエス様がへりくだりの末、十字架にまでかかってくださったということが教えられています。つまり、イエス様は、何らかの悪事を働いて…、そのための刑罰として十字架にかかられたのでは、決して無いということが分かります。

イエス様は、へりくだりの末に、十字架にかかってくださいました。それは、実は、私や皆さんのためでありました。…と言いますのも、そうする以外に、私や皆さんが犯した罪を清算する方法が無かったからです。すべてを造られ、すべてを統べ治めておられる真の神様は、聖書のみことばを通して、こう警告をしてくださっています。『それで、律法によれば、**すべてのものは血によってきよめられる、**と言ってよいでしょう。また、**血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。**』(ヘブル 9:22)って…。『**血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはない…**』これこそ、旧約の時代から、神様が様々な生贄などを通して、私たち人間に教えてくださっていたことでした。

聖書のみことばは私たち人間が皆、高慢で、罪深い存在であることを教えてくれています。それどころか、私たち人間は造り主である神様のことを無視し…、その神様に感謝しようともせず、自分勝手な道を歩んでしまっています。それを聖書は、「罪」と呼んでいます。

聖書のみことばによれば、私たち人間は皆、聖い神様の前に「罪人である！」ということが教えられています。それゆえに、私たち人間は皆、死後に裁きを受けなければならないのです。本来ならば、私も…、また、ここにおられる皆さんも…、皆、死後、自分の犯してきた罪の清算をしなければなりません。それこそ、イエス・キリストが、この地上に生まれてきてくださった理由であります。

イエス様が十字架にかけられる前の晩、イエス様は裁判にかけられました。その時、イエス様のことを裁いた総督ピラトは、様々な証言を聞いた後で、それらの証言が矛盾だらけで信用できないことに気付いておりました。そこで、ピラトは、イエス様のことを軽く懲らしめた上で、釈放しようとした。しかし、それでは多くの者たちが納得しませんでした。彼らは、イエス・キリストのことを、「十字架につけろ！」と言い張ったのです。…にも関わらず、イエス・キリストは、何一つ自分のことを弁護されませんでした。一体どうして、イエス・キリストは、ご自分のことを弁護しようとなさらなかったのでしょうか？⇒それは、私たちの罪が赦されるために…、イエス様の血が注ぎ出されることが、どうしても必要であったからです。「すべてのものは、血によって清められる！血を注ぎ出すことが無ければ、罪の赦しは無い！」のです。

実は、そのこともまた、イエス・キリストが生まれる何百年も前から預言されてあります。例えば、旧約聖書のイザヤ 53 章を見ますと、救い主となられるお方が、私たち人間のために、痛みや罪…、また、本来ならば、私たちが受けるべき懲らしめを身代わりに受けてくださる！ということが教えられています。イザヤ 53:4-6、『4 まことに、**彼**(つまり、救い主)は**私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。**だが、

私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。5 しかし、**彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。**彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、**【主】(つまり、約束の救い主)は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。**』

⇒ここでも預言されてありますように、私たち人間の罪を負うために、イエス・キリストは、この地上に来てくださいました。…と言うのは、私たちが犯した罪を負うためには、その者が、私たちと同じように罪を持っていたのでは、私たちの身代わりになることができないからです。実に、イエス・キリストは、私や皆さんの身代わりとなって裁かれて…、そのため、あの十字架にかかって、私やあなたに救いの道を備えるために、この地上に生まれてきてくださったのです！

●イエス・キリストの、その後？

どうぞ、皆さん。今日のみことばの最後、9 節以降をご覧ください。『9 それゆえ神は、**この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。**10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、**ひざをかがめ、**11 **すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。**』⇒ここで、みことばは、イエス・キリストが、そのへりくだりの故に…、つまりは、そのご降誕と、私たちの身代わりとなって十字架にかかってくださったことのために、父なる神様から祝福を受けられたということが教えられています。

…と言うことは、つまり、イエス・キリストは、あの十字架で死んで終わり、ではなかったのです！確かに、イエス様は、私や皆さんの罪が赦されるために、あの十字架にかかって死んでくださいました。しかし、イエス様は、その後、約束通り、復活されたのです！…いえ、イエス様だけではなく、イエス様を信じる信仰を持って救われた者は皆、1度、死んでも、その後、イエス様と同様、復活させられて、すべての罪や病…、また、様々な問題から解放されて、天へ行くことができるのです！

聖書を見ても、「肉体的死」というものは、罪の報酬であり…、罪の結果であることが分かります。だから、創世記 3 章などを見ても、罪を持ってしまった人間たちが初めて死ぬ者となったのです…。まさしく、聖書に、『**罪から来る報酬は死です。**…』(ローマ 6:23)と書かれてある通りです。イエス・キリストが、あの十字架にかかって、死んでくださったということは…、そのことによって、間違いなく、イエス様が私たちの身代わりとなって、罪ある者となってくださったことが分かります。

しかし、神であられるイエス・キリストが死んで…、そのままではいけません。イエス様は、約束通り、3日目によみがえってくださいました。その復活によって、やはり、イエス・キリストは真の神であられ、死であっても、イエス様を縛り付けておくことができなかったことが証明されました。先程、紹介したローマ 6:23 のみことば、『**罪から来る報酬は死です。**』という言葉の後には、こう続いています。『…しかし、**神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。**』って…。神は、ここにおられる皆さんに、本当のいのち…、永遠のいのちを与えようとしてくださっているのです！

<励ましの言葉>

皆さんは気付いてくださっていますでしょうか？よく、クリスマスツリーには、デコレーションとして、プレゼントの箱が結び付けられています。実は、それは、神が皆さんに与えようとしてくださっているプレゼントである、永遠のいのち！救いを象徴しているのです。そういったこともあって、私たちは今も、このクリスマスをお祝いするに当たって、お互いに、プレゼントを贈り合うわけなのです。

しかし、問題は私たちです！果たして、皆さんは、この神様が皆さんのために用意してくださった、救いというギフトである罪の赦し…、永遠のいのちを手にしていらっしゃるでしょうか？神は、皆さんに、罪の赦

しを与えるために、その神としての特権を捨てて…、人間となつてくださったばかりか、私や皆さんの罪を負って…、その身代わりに裁かれて、死んでくださったのです。

ひょっとして、皆さんは、せつかく、神が、その特権を捨てて…、そのいのちまでも犠牲にして、用意してくださった永遠のいのちへの切符を拒んではおられないでしょうか？どうか、できましたら、クリスマスのこの時に、このイエス様を真唯一の神…、あなたの救い主として信じて受け入れていただきたいと思います。

この後、私たちは、讃美歌 102 番、「もろびと声あげ」という賛美を歌っていきます。この賛美は、イエス・キリストの誕生が、「もろびと」…、つまり、世界中の全員が喜ぶべき出来事であるということを教えてくれています。そのイエス様は、「いぶせき馬屋」、つまり、動物たちの悪臭が満ちた家畜小屋に生まれてきてくださいました。また、あのイエス様は、天から下ってきて、私たちに、その天へ行くための道を示して、その天国へ入るための道を備えてくださいました！また、あのイエス様は、十字架の死後、3日目に約束通り、よみがえることによって、死に勝利してくださいました！…そのため、私たち、イエス様を信じる者たちは皆、あのイエス様と同様、死に対して勝利できる者へなったのです！

どうか、イエス様の与えてくださる救いの恵みを受け取って、この賛美を心から捧げられる者となつてください！最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。